

令和6年 3月4日

出張報告書

栗山町議会議長

鵜川 和彦 様

栗山町議会議員

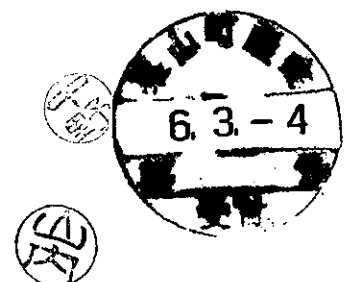
齊藤 義崇



このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 令和6年 2月 4日
- 2 出張先 東京都
- 3 研修事項 ・ 議会改革
 ・ 政策形成サイクルの樹立
 ・ 議会・議員のトレンド
- 4 関係書類 別紙のとおり



ミライの議員・議会のために

～住民福祉の向上と地方議会の政策サイクル～

- バックキャストでミライの議会・議員の姿を展望！
- 議員のなり手不足解消とコミュニティ自治の行方は？
- 議会は住民自治のプラットホームだ！

開催趣旨

北海道栗山町議会による議会基本条例の制定(2006年)から17年余りが経過しました。議会改革は第2ステージに入ったと言われますが、形式的な改革から実質的な改革への歩みはまだ本格的なものになっていません。2023年統一地方選においても議員選の投票率の低下、無投票率の増加に歯止めがかからず、一部では女性議員が増えたものの、町村を中心に議員のなり手不足はより深刻化・クローズアップされました。

(公財)日本生産性本部では、「地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会」(座長＝江藤俊昭・大正大学教授)を設け、「地方議会成熟度評価モデル」を開発するとともに、評価の実装化を通じて地方議会におけるさらなる住民福祉の向上を支援してきました。成熟度評価では「議会からの政策サイクル」の確立が前提となると同時に、「バックキャスト」でミライの議会・議員のありたい姿を展望することで、これから本格化する人口減少社会に議会・議員がいかに適応していくかを考えてきました。

本セミナーでは、議員のなり手とも密接にかかわるコミュニティのあり方とともに、ミライの地方議会・議員の姿を展望します。

会場 全国町村会館 2階ホール
(東京都千代田区永田町1-11-35)

対象 地方議会の議員、議会事務局の職員
他

定員 100名(会場定員、先着順)
※オンライン配信は行いません。

登壇者

2024年2月4日(日)
13:30～17:30

お申込みは
こちら



参加費 議員 11,000円
議会事務局職員・市民等 5,500円
※いずれも税込

コーディネーター：千葉茂明(日本生産性本部上席研究員)



大正大学
社会共生物学部教授
江藤 俊昭 氏

えとう・としあき 1956年東京都生まれ。中央大学大学院法学研究科博士課程満期退学。博士(政治学)。マニフェスト大賞審査委員、(公財)日本生産性本部「地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会」座長、第29次・第30次地方制度調査会委員などを歴任。『議会改革の第2ステージ』『自治体議会学』『地方議会改革』『議員のなり手不足問題の深刻化を乗り越えて』『非常事態・緊急事態と議会・議員』など著書多数。



東京都立大学
法学部教授
大杉 寛 氏

おおすぎ・さとる 1964年横浜市生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。専門分野は、行政学、地方自治論。東京都立大学法学部助教授を経て、2005年から現職。総務省地域づくり人材の養成に関する研究会座長などをはじめ、国・自治体の審議会等委員を歴任。著書に、『コミュニティ自治の未来図』『これからの地方自治の教科書 改訂版』など。



兵庫県西脇市議会
議長
林 晴信 氏

はやし・はるのぶ 1967年西脇市生まれ。甲南大学経済学部卒業。1996年、28歳で西脇市議会議員初当選(以降8期連続当選)。第9代、第11代、第13代議長。議長就任以降、西脇市議会を早稲田大学マニフェスト研究所議会改革度ランキング全国1位(2018年度)、日経グローバル議会活力度ランキング全国1位(2019年度)に導く。「議会は住民の中にある」「議会は住民自治のプラットフォーム」を掲げ、議会活動の傍ら、全国の自治体議会議員に研修講演等を精力的に行う。

※登壇者の肩書きは2023年11月5日時点



公益財団法人 日本生産性本部

日 時	令和6年2月4日（13：30～17：30）
視 察 先	全国町村会館2階ホール （東京都千代田区永田町1丁目11-35） 「政策サイクル推進地方議会フォーラム」公開セミナー に参加
調査事項	議会改革、政策形成サイクルの樹立、議会・議員のトレンド
1. 視察目的	さらなる議会改革を進め、政策形成サイクルの樹立を目指すため、議会のトレンド、求められる議会の姿について、講演や実践報告から研修することとした。
2. 視察内容	「ミライを展望した地方議会の政策サイクル」 13：40～14：30 江藤教授 「コミュニティ自治とミライの議会」 14：35～15：25 大杉教授 「議会は住民自治のプラットフォーム」林西脇市議員 15：25～16：15 パネルディスカッション 16：25～17：25 パネリスト上記3氏 千葉コーディネーター
3. 主な質疑	二元的代表制、政策形成サイクルについて質疑が多かった。住民との対話や声の聴衆・反映の手法についても、他の議員から質問も上がった。
4. 考 察 （感想、政策提言、課題など）	江藤教授（栗山町議会サポーター）の二元的代表制の課題と将来の地方自治の手法について、解説があったのが印象的で特に参考となった。従来の議会運営からの脱却と地域民主主義の劣化については、投票率の低下、なり手不足、質疑の充実がポイントであるということであった。また後の2つの発表からはディベート、対話、熟議の違いやコミュニティ自治を通じて考える議会について、全国や世田谷区での統計データを基に解説がなされ、住民との対話手法の交通整理ができた。 今後の栗山町の議会改革をさらに進めていくためには、現在検討している住民との茶話会や、出前報告会に加えて、住民のニーズを数値化して、根拠とすることが必要であると思った。町側の

住民アンケートなどを参考にしながら、議会側らしい統計情報の構築が重要だと各講演から感じた。パネルディスカッションでは、コミュニティの崩壊を防ぐために、持続可能な地方自治についての話題が多くを占めた。3氏のおよその考えは、地方議会の動きがその課題解決のカギであるとなったが、私は人口の少ない自治体の合併を視野に入れた、3万人から10万人のコミュニティを基本に地方政治を行うことが、前提となるのではないかと思った。事例発表の西脇市議会は住民と市側の懸け橋となっているが、人口は3万8千人、平成17年に1市1町が合併している。議員定数は16人で、議会改革が進んだ議会として、議員間討議も積極的で、予算決算の委員会の議論の結果が、市政に反映されている。

結論付けるまでには至らないが、ある一定の規模より自治体の人口や予算が下回ると、住民生活に支障をきたすので、議会改革のみならず、基本的な自治体機能の保持には、基礎人口・予算が確保されるべきであろう。今後も研修等を通じて、自己研鑽していきたい課題である。また課題としては議員の担い手不足や投票率の低下は、栗山町でも課題であるので、令和6年度の推進会議の話題として、この研修会の内容を活かして各議員と議論し答えを出していった。